

平成 30 年度つくば国際大学高等学校自己評価表

目指す学校像		『規律・活力ある学校』 1 服装や礼儀・挨拶等の躰教育を大切にし、心豊かで逞しい人材の育成を目指す学校 2 学習活動・部活動などに積極的に参加し、夢の実現を果たす学校、文武両道を目指す学校			
重点項目		重点目標			
1 基本的な生活習慣の確立		(1) 自他の人権・生命尊重の精神育成を図る。 (2) 規範意識の高揚と自主的・自立的態度の育成を図る。			
2 確かな学力の養成と進路志望の実現を図る。		(1) 生徒一人ひとりの能力の開発と自学自習の定着化を図る。 (2) 生徒一人ひとりの夢をはぐくみ、将来の自分を考えさせる。			
3 特別活動の活性化と生徒の人格形成		(1) 部活動の奨励と活発化を図り、生き生きとした心を育てる。 (2) 道徳教育により、豊かな心を育てる。			
4 国際理解教育・情報教育の推進		(1) 広い視野をもち、郷土を理解し、愛する精神の育成を図る。 (2) 高度情報化に対応できる人材の育成を図る。			
5 環境教育の充実		(1) 人間と環境とのかかわりについての理解を深める。 (2) 自然を愛し、学校と地域を美しくする心を育てる。			
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題	
〇〇部 第〇学年	1〇〇	〇〇			
	2〇〇	〇〇			
	3〇〇	〇〇			
	4〇〇	〇〇			
	5〇〇	〇〇			

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
第1学年	1 基本的な生活習慣の確立 ・挨拶, 言葉遣い, 身だしなみの徹底 ・規範意識の高揚	・校外内においてのきめ細やかな指導および積極的な声掛けをする ・集団生活を通し, 共通理解を図る ・教室掲示などを活用する	A	A-	<p>髪型服装検査における指導件数は少なかった。しかし, 上級生の姿を見て学校の指導に不信感を抱く生徒もおり, 学校全体で取り組む必要性を感じた。</p> <p>朝学習を週3回, 宿題を週2回, 週間学習計画の記録週1回と先生方の指導の下, しっかりと行うことができた。しかし, 家庭学習の習慣がほぼ身に付いておらず, GTZ のレベルも低いので, 進路目標を持たせていきたい。</p> <p>部活動加入率は, 51.6%であり, 体育祭などの学校活動によく参加している。今後も継続させていきたい。</p> <p>SNS のトラブルは少なかったが, 携帯電話での特別指導もあり, 指導法の改善が必要と感じた。</p> <p>担任の指導が行き届いており, 各クラスとも教室の衛生環境は素晴らしかった。しかし, 生徒会の美化活動への参加者が少なかったため, 環境教育</p>
	2 基礎学力の定着 ・勉強の大切さを教える ・家庭学習の習慣をつける ・進路目標を持たせる	・朝学習 (5 分間) の実施 ・週に2回宿題を与え, 家庭学習の定着を図る ・進路指導部と連携し, 充実した進路ガイダンスを実施する	B		
	3 特別活動の活性化 ・部活動加入率を上げる ・学校行事に積極的に参加させる	・部活動への参加を促す ・文化祭や体育祭などの学校行事に積極的に参加させる	B		
	4 情報教育 ・SNS やブログ等でのトラブルの未然防止を図る	・生徒指導部等と連携し, SNS の背後に潜む危険を察知させる	B		
	5 環境教育 ・教室学習環境の整備	・教室の美化を徹底し, 落ち着いた環境で学習させる ・学校への不要物の持ち込みを禁止	A		

	・地域美化活動への参加	<p>する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒会の美化活動に積極的に参加させる。 			にさらに力を入れていきたい。
第2学年	1 挨拶や適切な言葉遣い，正しい身だしなみを実践できる生徒を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活全般において指導を心がけ，教員が模範となる。 	C	C	<p>目標1について。挨拶と言葉遣いについては1年次に比べできる生徒がふえたが，身だしなみは，指導を受けてからはじめてできる生徒が多数みられた。自主的に行えるよう指導を継続していく。</p> <p>目標2について。総合的な学習の時間を中心に表現力トレーニングを行った。活動としては概ね行うことが出来たが，能力を高めるところまでは至っていない。</p> <p>目標3について。学年全員で，語彙読解力検定と漢字検定を受験し，合格に向けて努力することができたが，学習時間が足りず合格率は満足できるものではなかった。</p> <p>目標4について。ガイダンス等を設けることで将来について考える時間を持たせることはできた。来年度の進路決定に繋げられるよう指導を継続</p>
	2 表現力やコミュニケーション能力の高い生徒を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間やLHRを利用し，学年職員が連携をとり，指導する。 ・休み時間や放課後などに積極的に声をかけ，教員からコミュニケーションをとる。 	C		
	3 資格を取得できる生徒を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> ・語彙・読解力検定や漢字能力検定の3級取得を目指し指導する。 	B		
	4 自分の将来を考えて行動がとれる生徒を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> ・将来の夢や目標を持つことの大切さを理解させ，自分の夢や目標について考えさせる。 ・将来の夢を実現させるために，現在あるべき姿や行動について考えさせる。 	C		

					していく。
3 学年	1 あいさつ・適切な言葉づかいのできる生徒を育てる。	HR, 授業等, 日常生活における指導を心がけ, 教員が範を示す。 思いやりの心の尊さを, 折にふれて生徒に伝える。		B	あいさつ・適切な言葉づかいができる, 正しい身だしなみの実践, 継続して学習に取り組む, 教室の美化や適切な学習環境を整えることができる生徒の育成は, 基本的な生活習慣の確立がなされているか否かが問われていると考える。 基本的な生活習慣の確立が不十分な生徒に対する指導は, 指導する側の根気と連携, 保護者への協力の回り方にこれまで以上の工夫が必要である。 希望進路を実現することに対しては, 生徒なりに強い思いを持っている。その思いを実現するために必要な行動目標を, 具体的に提示し, 生徒を納得させて行動を促し続けることが, 生徒の生活習慣の改善には必要である。
	2 正しい身だしなみを実践できる生徒を育てる。	HR, 授業等, 日常生活における指導を心がける。 「自律」を意識した行動を促す。	C		
	3 継続して学習に取り組むことができる生徒を育てる。	授業の説明をきちんと聞くことの大切さを認識させる。 教科担当者と担任, 学年職員が連携して生徒の学習状況を把握し, 個に応じた指導を行う。 課外授業の機会を, 進学希望者・就職希望者ともに設け, 基礎学力の向上をはかる。	C		
	4 教室の美化に努め, 適切な学習環境を整えることができる生徒を育てる。	教室の美化, 学習環境を整えることの意義を理解させる。 清掃用具の使い方, 具体的な清掃の手順を示し, 教室の美化に関心を持たせる。	A		
教務部	授業時間を確保し, 規律ある授業の徹底を図る。	・年間行事予定等を再考し, 授業実施日を確保する。			年間行事を見直し, 行事の見直しもふくめ, 授業時間の確保を検討する必

		<ul style="list-style-type: none"> ・時間を守れているか（チャイムで授業が始める）。 ・授業の始まり・終わりの挨拶の徹底。 ・規律ある態度で授業を受けられるようにする。 	C	B	<p>要性を感じる。</p> <p>授業の遅刻、トイレ等による途中退出が相変わらず目立つ。生徒が授業を受けたいくなるような授業改善を教員側が考えることが大切と感じた。</p> <p>家庭学習の習慣づけに関してはこれからも大きな課題と考える。今後、PDCA サイクルに対する理解が鍵になると思われる。</p> <p>新学習指導要領を意識し、授業改善（AL）のための研修や研究授業の実施、また、2020年度スタートのアドバンススクールに向けてのカリキュラム編成など、徐々に進んでいる。次年度は評価方法の検討を進める。</p>
	基礎基本の修得に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習を習慣づけ、確かな基礎学力を定着できるようにする。 ・月水木の朝学習の実施により、落ち着いた状態で1時間目の授業を受けられる体制をつくる。 	C		
	現行教育課程の点検と検討。	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科との連携を深め、カリキュラムの充実と指導法の向上を図る。 	B		
	新学習指導要領を念頭においた、評価及び教育課程の検討。	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科と連携し、新学習指導要領を意識したカリキュラム編成を検討する。 ・新学習指導要領を意識したうえでの成績の評価方法を検討する。 	A		
	教員の授業力の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・アクティブラーニングを意識した授業の研修および改善をする。 	A		
進路指導部	1 生徒一人ひとりの能力の開発と自学自習の定着化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・学習姿勢・習慣の定着。 ・特に朝の SHR での朝学習を取り 	B	C	<p>資格取得に関しては、各学年、各教科とも積極的に取り組み、受験者数の</p>

		<p>いれ、学習雰囲気づくりを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 以下の資格取得の奨励。 語彙読解力検定は第一学年で4級全員受験。 主要3教科に関する、実用英語技能検定、日本漢字能力検定、実用数学技能検定受験の啓発に努める。 就職・進学の際に有利になるように、資格取得の啓発に努める。 	B	<p>増加につながっている。しかしながら、依然として、個々の学習目標の設定やテスト結果の分析に対する指導ができておらず、次への取り組みの課題点が見いだせないまま、学習に取り組んでいる感がある。次年度は、教員、生徒共に目標の設定、計画、テスト結果の分析ができるような体制を検討したい。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> 自己学力の分析と学習到達目標の設定。 模試での成績の自己分析や次のテストへ向け課題設定を行い、学力向上を図る。 模擬試験の事後学習として、Webコンテンツを利用し、生徒が自ら学習する習慣の定着する。 数値的目標としては、模試の学習到達度 D ゾーンから C ゾーンへ到達する学力向上を重点課題とする。 	D	

	2 生徒一人ひとりの夢をはぐくみ、将来の自分を考えさせる。	<ul style="list-style-type: none"> ・3年間を通し、学年ごとに適切な進路ガイダンスを実施する。 ・オープンキャンパス、インターンシップ、体験学習への奨励と参加の啓発活動を積極的に行う。 	A	A	進路ガイダンス、体験学習などは積極的に参加する生徒が増えてきた。特に医療系の進路を意識したガイダンスの参加などは、以前より倍増した。一時的な希望者増加も知れないが、今後は、併設大学・短期大学との高大連携を意識した啓発活動に力を入れていきたい。
生徒指導部	1 情報安全に関わる指導	・携帯電話・スマートフォンの適切な利用方法について指導し、利用マナーの啓発を図る。	C	C	スマートフォン使用、交通安全、薬物乱用等についての講話を計画したが、他行事との日程調整が困難になってしまったことから実施が出来なかった。それぞれの問題等については、適時パンフレット等を配付し、担任主導でホームルームでの啓発・指導は実施してもらったが、専門家による全体への指導の機会がつけられなかったのは大きな課題であった。次年度以降については、実施時期（日）を固定し、優先して各講話を実施出来るよう企画・立案を図りたい。 登下校指導時の指導は有効である
	2 交通安全指導	<ul style="list-style-type: none"> ・通学路における定期的立哨指導。（月1回・2週にわたり実施。） ・交通安全講話の実施。 ・通学用自転車の安全点検確認。 	B		
	3 基本的生活習慣の指導	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な服装髪型検査の実施。 ・風紀委員・担当職員による定期的な挨拶・声掛けの実施。 	B		
	4 薬物乱用防止指導	<ul style="list-style-type: none"> ・薬物乱用防止講話の実施。（薬物乱用の危険性について認識を高める） 	C		

	5 いじめ防止に関わる指導	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめに関するアンケート調査の実施 ・集会・HRにおいて『いじめ』について話し『いじめ』のない生活の確立を目指す。 	B	<p>が、指導日以外の様子は依然として改善が見られない傾向にある。交通事故の危険性については、適時担任から注意・指導をなされているものの、引き続き自発的な意識の高まりを促すための施策を考える必要がある。</p> <p>いじめについては、依然としてみられる実状が残念であった。学年やクラス単位での注意・指導をはかって来たが、部活動内のからかいや悪ふざけの延長上に、大きな問題となる行為がみられたことから、ホームルーム以外での集団内における適正なコミュニケーションづくりを指導する必要性を感じ、各顧問の協力を得たいと考える。</p> <p>きちんとした服装での登下校・生活について、繰り返し注意を促してきたが、一部の特定生徒については改善が困難な状況が見られた。次年度は指導についての優先順位を考え、教員が一丸となって指導に当れるよう協力を求めてゆく。</p>
--	---------------	---	----------	--

					次年度は指導についての優先順位を考え、教員が一丸となって指導に当れるよう協力を求めてゆく。
渉外部	1 保護者と教師の連携強化を図り、本校教育活動の理解及び発展を目指す	PTA 活動を通じ、保護者との情報交換を積極的に行い、各活動に対する共通理解を図る。	B	B	<p>今後も PTA との連携を密にし、しっかりと情報交換をすることは必須である。</p> <p>次年度は PTA 関係行事の精査を PTA 会員とともにを行い、必要行事、不要行事を見極め、改革を行うことが必要ではないかと思われる。</p>
		PTA 活動における改善点や問題点に対して保護者との意見交換を積極的に行い、対応を図る。	B		
特別活動	1 部活動を奨励し、規律活力ある学校を目指す。	・部活動見学期間を設け、多くの生徒が部活動へ加入するよう勧める。	B		<p>新入生の部活動加入率が 51.9%という例年よりやや高い数字が出た。より加入率をあげて、部活動加入率 60%に目標を設定し、活力ある学校にしていきたい。</p>
	2 学校行事を通して、集団への所属間や連帯感を深め、公共の精神を養い、協力してより良い学校生活を築こうとする自主的な態度を育てる。	・学校行事を精選し、生徒一人ひとりが自主的に取り組めるよう企画を工夫する。	B		
	3 人間と環境とのかかわりについての理解を深める。	<ul style="list-style-type: none"> ・環境美化活動に積極的に取り組み 学校内外の定期的な清掃を行う。 ・ペットボトルキャップリサイクル運動を行う。 	C		

	4 運動に親しむ態度の育成, 集団の中での責任感や連帯感の涵養をはかる。	・体育祭で団編成や競技を工夫する。	B		
	5 個性を伸ばし, 自主性, 創造性を高めるとともに, 成就感や連帯感を味わい, 責任感と協力の態度を養う。	・文化祭学年企画として, 作品制作を行うなど, 生徒が協力して創造できるよう工夫をする。	C		本年度好文祭が日程上非常に気厳しい状況であった。次年度については日程を考慮し企画を精選して心に残る催しものにしていきたい。
	6 本物の文化や芸術に直接触れることを通して情操を高め, 豊かな教養を育成する。	・芸術鑑賞会を行う。	B		
保健厚生部	1 校舎内外の日常の清掃活動を充実させ, 学校環境の一層の美化を目指す。	・教室内の清掃をきちんと行い, 分担区の美化にも気を配り, ごみの落ちていない, 環境をつくる。	B		
	2 防災及び震災対策の徹底を期し, 生徒・職員の防災への意識を高める。	・防災・防火避難訓練を通して, 身の安全の確保の仕方と避難経路を確認させ, いざという時に人的被害が出ないようにさせる。	B		
	3 奨学金の内容について, 生徒及び保護者に周知徹底し, 適切な利用ができるようにする。	・奨学金関係の連絡が漏れなく生徒・保護者に伝わるようにし, 提出期限等を厳守させる。 奨学金の説明会を適宜実施し, 保護者を含めて, 適切な利用ができるよう促す。	A		

					の保護者への対応等で、担当者の負担が大きかった。
教育相談部	教育相談の円滑な運用を図り生徒の自己理解を促し、建設的な変化（成長）を支援する。	不登校など学校生活に大きな不安や緊張を感じている生徒や、青年期の発達課題に直面し悩みを抱えている生徒に対して、生徒を取り巻く担任、学年、保護者、カウンセラーとの連絡・調整を図り、その生徒の抱える悩みや困難を解決する援助をする。	A	B	<p>本年度の教育相談室利用者（2月28日現在）28名（延べ回数353回）である。特に1年生の利用者が14名と多かった。しかし14名中11名が1～2階の利用で留まっている。2・3年生では20回を超える者が6名であるが、このうち前年度からの継続利用者が多かった。また、カウンセリング利用は20名（延べ回数124回）と、昨年より増加している。</p> <p>また、本年度の支援会議において、必要に応じスクールカウンセラーが参加し、情報の提供や所見等の協力を得た。指導上の参考、または共通理解を踏むうえで役立つものがあり、次年度も引く続き行いたい。</p> <p>今後も教育相談室利用者、及びカウンセリング利用は増加が予想される</p>
		各教科担当の教師と授業での学習内容の確認作業を行うなどし、相談室を利用する生徒の学習が滞らないようにするとともに、生徒の自学的学習をサポート体を取り、生徒の学習意欲を促す。	B		
		職員研修を定期的実施しカウンセリングマインドを持った教員を育成する。	B		

					ので、教員及びスクールカウンセラー、それに保護者との協力体制密にに対応や指導にあたることが求められる。
--	--	--	--	--	---